

もっと、住民主体の論議を！

～ 市民円卓会議 ～

6月8日(日)、市民会館で鬼のたまご協議会主催の『市町村合併について・市民円卓会議』が開かれました。

この会議は、2月に開催された市民フォーラム『まちづくり、まちの自立について』に続くもので、市町村合併論議を契機に高まった『市民主体のまちづくり運動』の一層の発展を促そうと開かれ、市民など約65人が参加しました。

会議は、前回の会議に引き続き安田睦子さん(㈱インタラクション研究所代表)が総司会を務め、『市町村合併に関する特別委員会』の委員を務めた市議会議員7人がパネラーとなって、市町村合併をテーマに話し合いが始まりました。

最初に、同特別委員会委員長の山本茂治議員から「市民の合併の認識に差が大きい」など、室蘭市との法定合併協議会設置について否決に至った経緯を説明。各議員からは「まちづくりの議論を高めていくことが肝心」「合併は白老町を含めた西胆振全体で考えるべき。住んでいる人が豊かさを感じるまちが望ましい」「住民主体の自治でないと議論が進まない」など住民主体のさらなる議論を求める意見が多く出されました。



市町村合併について意見を述べる市議会議員のみなさん

廃校活用のアイデア・手法が評価されました

～ 札内高原館が『廃校リニューアル50選』に～

6月4日(水)、文部科学省の『廃校リニューアル50選』が発表され、旧札内小中学校の校舎を再整備した札内高原館が選ばれました。

この50選は、全国的に少子化・過疎化の影響で廃校が相次ぐ中、地域の活性化や新たな産業創造に展開している廃校活用のアイデアや手法を広く紹介しようと実施されたものです。

道内から深川市の芸術文化交流施設とともに選考された札内高原館は、閉校となった旧札内小中学校を改修し、平成12年4月にオープン。同館の管理を委託している市農業振興研究会(地元の畜産農家などが参加)が地場の農畜産物を利用したソーセージやチーズ、アイスクリームなど、付加価値のある製品造りを目指し、加工研究に取り組んでいるほか、札内町の歴史をつづる資料室を設け、体育館や校庭は、コミュニティー施設として開放されています。



うまくなってきたかな？

～ 男性料理教室 ～

男性にも、食生活や料理に対する関心をもってもらおうと、登別市食生活改善推進員協議会主催による『男性料理教室』が5月20日(火)、しんた21で開催されました。

はじめに市の栄養士から、塩分を控え、カルシウムが多く含まれた食品を食べることなど、生活習慣病にならないための食生活について説明を受けた参加者9人は、『たけのこご飯』や『白玉だんごのすまし汁』など4品に挑戦。

使い慣れない包丁を手に悪戦苦闘して、調理を終えた参加者は、自分で作った料理を笑顔で味わっていました。

